



各 位

2019年5月15日
サノヤスホールディングス株式会社

LNG 燃料 木材チップ運搬船のコンセプトデザインおよびその承認について

当社の連結子会社であるサノヤス造船株式会社では、船舶に関連する環境規制の順次強化へ対応を図るべく、液化天然ガス（LNG）を燃料とする430万キュービックフィート型木材チップ運搬船のコンセプトデザインを完成させ、今般、そのデザインに対して、一般財団法人日本海事協会（ClassNK）から基本図面の審査を受け、概念設計承認（AiP: Approval in Principle）を取得致しました。

昨今、国際海事機関（IMO）により、国際的な船舶に対する排ガス規制が段階的に強化されており、二酸化炭素（CO2）、硫黄酸化物（SOx）および窒素酸化物（NOx）の排出が規制対象となっています。LNGは上記の環境規制に対応可能なクリーン燃料であり、従来の船用燃料である重油の代替候補の一つとして注目されています。また、シェールガスの利用等により長期安定供給が可能となると、LNGを船用燃料とする動きはますます大きくなるものと見込まれます。



左から
(-財)日本海事協会 船体部長 赤木正則様
サノヤス造船(株) 技術開発部長 古池健太

本船型はLNGを主燃料とすることで、IMOの温室効果ガス（GHG）削減戦略の2030年目標である「平均燃費40%改善」を達成すべく、エネルギー効率設計指標（EEDI）にて40%以上の改善を可能としています。これにより、GHG削減戦略の2050年目標である「総排出量50%削減」の達成へ貢献することのできるデザインであると考えています。

その他の特徴として、LNG燃料タンクを居住区の船尾側に配置し、木材チップ運搬船で重視される貨物容積を確保しております。また、木材チップ運搬船特有の深さ方向のスペースを有効活用し、LNG燃料供給システムを機関室付近に格納しています。なお、本船型に装備されるLNG燃料タンクは、同社での設計及び製造を、LNG燃料供給システムは同じく同社での設計及び設置を想定しています。



LNG 燃料 木材チップ運搬船（イメージ）

この度のAiP取得により、その他の主力船型へもLNG燃料技術を展開することが可能となります。今後とも当社グループは、「確かな技術に まごころこめて」をスローガンとして、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組んで参ります。

【本件に関するお問い合わせ先】

サノヤス造船株式会社
技術開発部（086-475-1071）